

<b>授業科目</b>  成人看護学実習 I	<b>区分・教育内容</b>  専門分野Ⅱ 臨地実習		
<b>授業担当者</b>  堀 裕美	<b>開講時期</b>  中期	<b>単位</b>  2 単位	<b>時間数</b>  90 時間
<b>授業の目的</b> 急性期・周手術期にある対象に、状況に即した看護を実践する能力を養う。 <b>授業の目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急性期・周手術期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に把握できる。</li> <li>2. 対象の健康上の問題を解決するため、科学的根拠に基づいた看護を展開できる。</li> <li>3. 対象の価値観を認め、円滑な人間関係を形成できる。</li> <li>4. チームにおける看護の専門性を理解できる。</li> <li>5. 看護実践を通じて、研究的態度を身につけ、自己の看護観を高めることができる。</li> </ol>			
<b>授業概要</b> 本実習では、周手術期・急性期における看護の実際を学ぶ。健康に急激な変化が生じ、身体に大きな侵襲を受け、迅速かつ適切な医療介入を必要とする時期である。身体的苦痛も強く、精神的にも不安を抱きやすい。手術・急性期の医療ではチーム医療を必要とし、安全で迅速な治療および早期回復・苦痛緩和に努める必要がある。チームの一員である看護師も検査の結果からアセスメントし、術後または急性期における患者の全身状態がどのように変動するか予測して、ケアの計画を立てる必要がある。また、術後起こりやすい合併症について、予防と早期発見のための観察、ケアが必要となる。また、術後の離床や安静拡大に伴う安全に配慮した支援の方法を学ぶ。さらに、退院後を見据えたセルフケア支援も重要である。これまでその人が生活していた家庭や社会における役割、生活習慣、価値観や心理的側面を理解し指導する看護の役割について学ぶ。 <b>授業計画(進め方)</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日程・実習場所はガイダンス用紙に準じる。</li> <li>2. 患者を1～2名受け持ち看護過程の展開をする。</li> <li>3. 日々の状況に即した、観察・アセスメント・実践を行い、評価する。</li> <li>4. それぞれの看護過程をケースカンファレンスで検討する。</li> <li>5. 1日の実習内容と学びはカンファレンスで交流した後、看護過程用紙に整理し、翌日提出する。</li> <li>6. 実習終了カンファレンスで、学びを交流する。</li> <li>7. 手術室事前見学を行い、機会があれば受け持ち患者の手術見学をする。</li> </ol>			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 ナーシンググラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版 ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護③ 消化器 メディカ出版 病気がみえる vol.1 消化器 第5版 メディックメディア 系統看護学講座 専門Ⅱ 運動器 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 山口瑞穂子、関口恵子監修 疾患別看護過程の展開 学研 中島恵美子、伊藤有美監修 これならわかる！ 術前・術後の看護ケア ナツメ社 山本千恵編著 周術期看護はじめの一步 照林社			
<b>評価の方法</b> 成人看護学実習 I 評価表に沿って評価する。			